

道徳教材 ドラマ



「はじめとは何か?」「隣がいと向き合うとは?」

戸耳のアリ

こえのかたち



本作について

道徳の授業の教科化に伴い、如何にして子ども達が「心の豊かな人間」に育てるか様々な議論がなされています。現代の原作の「愛の形(こえのかたち)」(講談社)は、「現代の子どものリテラシー」などの難しいテーマを、読者が自然に高く持てる事のできる優れた物語であり、人権意識を常に高く持つ事ができます。

本作は原作の物語の基本としてのテーマを付加したドラマ形式の学習教材です。本作は原作の物語を基本に、教材としてのテーマをや家庭内で活用できるようにするために、監修の方針を記載しています。

授業で使いやすい
DVD 66,000円(税込)
学習指導案付き
ワークシート
字幕版付き

監修：一般財団法人 全日本ろうあ連盟

【収録資料】

本DVDは、授業でお使い頂きやすい様に、以下の資料をデータ収録しています!!

● 学習指導案
本DVDを利用した50分授業の学習のねらいや目標、指導展開案など

● ワークシート裏
学習指導案に則った構成で、生徒の意見を引き出しやすい設問案

作成協力:岡崎市立葵中学校



【原作について】

「はじめとは何か?」「隣がいと向き合うとは?」



▲本DVDパッケージ
▲本DVD第1巻

©大今良時／講談社

【監修に寄せて】

一般財団法人全日本ろうあ連盟
もし教室に耳の聞こえない生徒がいたら…、
先生の声、クラスメイトの声が届かない生徒が。

DVD盤の形は耳の聞こえない瑞子を取り巻く学校生活の現実を率直に描いていると思います。聞こえない生徒に皆の声を届け、自らのメッセージを伝えられる方法のひとつに手話があります。手話は目で見て手や表情などで伝えるやり取りが広がっています。皆がこえない人の手話を広める取り組みができる社会となることを願っています。

先生や生徒たちが瑞子へ自分たちのメッセージを伝え、瑞子のメッセージをどう受け止めらるか、そのコミュニケーション方法も含めて一人ひとりが考へてほしいと思います。

監修:吉澤浩一／脚本:松島重利子／プロデューサー:岡田和一郎／キャスティング:プロデューサー:吉澤浩一
音楽:加藤亞祐奈／「ラブ・ガーデン」(原作指揮:手話あらんじ) 配信協力:東京都在ろう学校
制作:東映株式会社 教育映像部 ©大今良時 講談社 2015年作品

予告編配信中!
教育映像
検索 <http://www.toei.co.jp/edu/>

お買上げは

東映株式会社 教育映像部
 <http://www.toei.co.jp/edu/>

TRIAL MODE - a valid license will remove this message. See the keywords property of this PDF for more information.

【学習のねらい】

- ドラマ内で描かれる
- “いじめのメカニズム”を知る。
- いじめに悩む人の気持ちを想像し、いじめを防ぐ方法や加害者に対してどういう行動が取れるのか考える。
- 隣がいるある友人ととの接し方について考える。

【原作について】

「はじめとは何か?」「隣がいと向き合うとは?」



▲本DVDパッケージ
▲本DVD第1巻

©大今良時／講談社

【監修に寄せて】

一般財団法人全日本ろうあ連盟
もし教室に耳の聞こえない生徒がいたら…、
先生の声、クラスメイトの声が届かない生徒が。

DVD盤の形は耳の聞こえない瑞子を取り巻く学校生活の現実を率直に描いていると思います。聞こえない生徒に皆の声を届け、自らのメッセージを伝えられる方法のひとつに手話があります。手話は目で見て手や表情などで伝えるやり取りが広がっています。皆がこえない人の手話を広める取り組みができる社会となることを願っています。

先生や生徒たちが瑞子へ自分たちのメッセージを伝え、瑞子のメッセージをどう受け止めらるか、そのコミュニケーション方法も含めて一人ひとりが考へてほしいと思います。

監修:吉澤浩一／脚本:松島重利子／プロデューサー:岡田和一郎／キャスティング:プロデューサー:吉澤浩一
音楽:加藤亞祐奈／「ラブ・ガーデン」(原作指揮:手話あらんじ) 配信協力:東京都在ろう学校
制作:東映株式会社 教育映像部 ©大今良時 講談社 2015年作品

お買上げは

http://www.toei.co.jp/edu/

TRIAL MODE - a valid license will remove this message. See the keywords property of this PDF for more information.

私はこの人を通り抜けて
仲良くなりたいのです。

「いや、それで、将也と硝子の物語を運んで掛け、「いじめ」そして障がい者の声のことを書く。

転校してきた少女

石田特待のクラスに転校してきた西脇瑞子は视觉障がい者だが、筆談ノートで皆に積極的に語りかける。当初は好意的に瑞子を受け入れていたクラスだったが、瑞子が原因で授業が止まつたり、筆談ノートの煩わしさに徐々にストレスを感じていく。

1

転校して
石田将也のクラスに転校してきた
精神的に語りかける。当初は好
きに原因で授業が止またり、筆談

3 いじめの始まり

「黒板や机に墨口を書かれたり、体育の時間にボールをぶつけられたり。『両宮でいいから平気なんやね？』徐々にエスカレートするじめ、いじめの標的になってしまう。

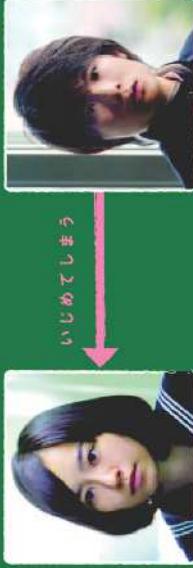
「西宮にいりておみやげを

「西宮ははじめられた時、何を思つたんだろう……」
辛い自らの境遇と硝子を重ねる将也。

6 残されたノート

「お前が何を言っているんだ？」
「お前が何を言っているんだ？」
「お前が何を言っているんだ？」
「お前が何を言っているんだ？」

圖書人



◀ 石田 将也
(イシダ ショウヤ)



西宮硝子（ニシミヤショウコ）
群雛隊がい者の転校生。
クラスに溶け込むと努力
するが、はじめの標的に
なってしまう。



いじめる／いじめから／助けようとする 元々は仲が良かったが いじめを
理解してしまう



5 硝子の転校

5 硝子の転校



A photograph showing a person sitting at a desk in a room filled with bookshelves. The photo is slightly tilted and has a white border.

そこには誰も気に留めなかつた蘭子の“声”が籠っていた。

「あの時、アイツの声が聞こえいれば。
いやアイツの声を聞こうとしていれば…」
将也の頬に一筋の涙が伝う…

判級學

前子の怪我の原因を追究する学級会が行われるが、クラスメイト達は、全ての原因を怪我にしなりつけようとする。周囲の真切りに愕然とする将也だったが、これがあなないじめの體的となる日々の始まりだった。

